

股関節だより

創刊号

平成12年1月

事務局：佐賀医科大学整形外科

〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1番1号

TEL 0952-34-2343

FAX 0952-34-2059

発行日 平成12年1月15日

「股関節だより」創刊のご挨拶



教授 佛淵 孝夫

平成10年9月1日より渡辺英夫先生の後任として、佐賀医科大学整形外科の第2代教授に就任し、1年半を迎えようとしています。この度、「股関節だより」を創刊する運びとなりました。昨年1年間の整形外科の手術件数は約530例でそのうち股関節手術が200例余となっております。この数は国立大学附属病院の中ではNo.1といっても過言ではありません。佐賀県内、九州一円はもとより、遠くは関東、関西、中四国からも多くの患者さんにおいでいただき、一同感謝申し上げます。

私にとりまして股関節外科は九州大学で故西尾教授、現九州大学杉岡総長に20年にわたり教えを頂いた最も力を入れている分野です。九州大学、好生館、佐賀医科大学を通じて1年間に150例前後のペースで股関節手術をさせていただいております。しかしながら、この20年間に社会情勢、医療技術、個人個人の健康や生き甲斐に関する価値観等が大きく変化してきました。私ども医療人はこのような変化に適切に対応する必要に迫られています。「医療を受ける側、つまり患者の立場に立った医療」が望まれています。

この「股関節だより」は既に手術等の治療を受けられた皆様の日常生活上の問題点やご要望などをお聞きし、今後のケアや定期検診に役立てたいと思います。また皆様患者さん同士のコミュニケーションの場にもなればと思います。さらに、これから私ども佐賀医科大学整形外科を受診する方々に少しでも役に立てばという思いから創刊することになりました。

今後、股関節の病気についての解説や、予防や治療についての最新の話、皆様からの情報などを定期的にお届けする予定です。創刊号の今回は私どものスタッフの紹介と先ごろ皆様にお答えいただきましたアンケート結果について掲載させていただきました。

今後とも、ご意見、ご要望あるいは身近な話題など何でも結構です。皆様方からの「声」をお待ち申し上げます。



医師 堤 幸彦



整形外科の堤と申します。佛淵先生のもとで主として股関節疾患の診療、研究に従事しております。現在当科を受診される、股関節疾患の患者さんの数は徐々に増加してきていますが、これは、これまでは股関節に痛みなどの不具合があっても、その治療法などがよくわからず、痛みがあっても我慢して日常生活を送ってこられた方々が新聞記事を始めとする医療情報により、こんな治療法があるのかと理解され始めたためかもしれません。また、当科にて治療を受けられた患者さんが、他の患者さんに自分が受けられた治療について教えて頂いたからだとも思います。

今後はこの紙面を通じて、股関節疾患について、それがどのような病気なのか、またその治療法にはどのようなものがあるのかなど、患者さんたちにとって有意義な医療情報をご提供できればと考えています。

どうぞよろしく申し上げます。

医師 古賀 俊光



佛淵教授のもと、今年6月より大学で股関節を中心に研鑽の日々を送っております。微力ではありますが、患者の皆さんが痛みや日常生活の困難さを乗り越え早期に社会復帰できるように、他のドクターやスタッフと共に支援できればと考えております。なるだけ、分かりやすく説明し理解いただけるように、努力するつもりですが分かりづらいことや、疑問等がございましたら遠慮なく質問して戴けたらと存じます。よろしくお願い致します。

医師 石井 孝子



佛淵教授が佐賀医大にいられて早いもので1年4カ月が経ちました。その間、股関節グループの一員として多くの患者さんにお会いすることができました。涙、涙で手術を決心された方々の術後の明るい笑顔を見るにつけ、私も佛淵先生のような腕の立つ外科医になろうと思うこの頃です。

股関節の患者さんは女性の方が多く、診療や処置の時に恥ずかしい思いをされたり、股関節が悪いことでの女性特有の悩みもあるかと思えます。そんな時、男性の医者に相談しづらいことがあれば、私や他の女医や看護婦さんに遠慮なく話してください。

運動療法士 田中 信廣



昭和56年4月1日より、佐賀医科大学附属病院勤務の理学療法士です。当時、講師、助手、学生だった人が、教授、助教授になっていきますので20年の歳月を感じます。股関節は球関節なので、チームワークは丸く、自由度3度

なので、『臨床・教育・研究』、『態度・知識・技術』、『医療・福祉・保健』などバランスのとれた臨床家をめざしています。PT 1人なので、色々大変ですが、佛淵先生の後ろ姿をみて敬服しています。精一杯頑張っていきたいと思えます。

整形外科病棟

婦長 黒田富士子

皆様こんにちは！

今年の2月より整形外科病棟を担当しております。当病棟では、入院中の患者さんの殆どが変形性股関節症と診断され、多少なりとも日常生活動作に支障を来し行動範囲が制限されています。そのため、手術を希望し九州圏内はもちろん遠方より来院される患者は多い状況です。そのような患者さんの期待に添うよう佛淵教授を中心にチームワークと連携を良くし、症状の回復過程を正しく把握した適切な自立へ向けての援助を目指し、患者さんに満足し安心した入院生活を送って頂けるよう努力してまいりたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。

整形外科病棟

副婦長 山崎 初美

整形外科病棟看護婦はとても明るく、元気に働いています。患者さんも手術することにより疼痛が緩和され、笑顔で入院生活を過ごされています。私達看護婦は、少しでも患者さんの役にたてるように援助していきたいと思えます。これから手術される方も安心して入院することができるように頑張りますのでよろしく申し上げます。

整形外科病棟

副婦長 堀田ときえ

私たち看護婦の最大の喜びは、患者さんが笑顔で退院される事です。

患者さんが、これまでの股関節の痛みから開放され、よりよい生活を送られる事を願っております。

そのためにも、患者さんに、手術を受ける不安と、手術やりハピリによる痛みを和らげることができ、満足して退院していただけるよう看護していきたいと思っております。

今後ともみなさまの、貴重なご意見をお聞かせください。よろしくお願い致します。



病棟 左から堀田副婦長・黒田婦長・山崎副婦長

人工股関節全置換術後のアンケート調査結果

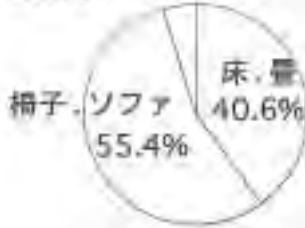
平成11年の春と秋に人工股関節置換術を行った患者さんにアンケート調査を行いました。

秋の調査では79名の方に調査票を送りましたところ、67名の方から回答をいただき（回答率85%）ご協力ありがとうございました。

アンケートの集計結果について、第32回、33回佐賀リハビリテーション研究会と11月に仙台で開催された日本股関節学会で発表し、私達が行っている早期からのリハビリテーションによる早期の社会復帰に多くの先生方からの関心を集めました。

退院後の皆さんも、自分は他の人と比べてどうだろうかと考えている方もいらっしゃることでしょう。簡単にまとめてみました。

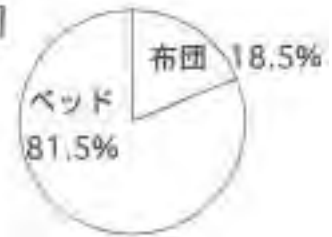
【退院後の生活】



【運転】



【寝具】



【杖】



【トイレ】



【正座】



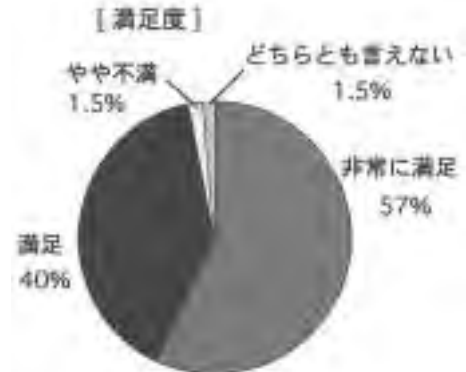
【仕事復帰】



【階段】



【満足度】



家の改造の項目では、手すりをつけた、風呂場を改造したという方が多かったです。

仕事は退院後1カ月から復帰されている方が多く、内容は“家事”が最も多かったのですが、中には農業をしているというお元気な方もおられました。

車の運転は退院後約2週間から再開されている方が多く、杖は退院後1カ月半頃から必要なくなったと回答された方が多かったです。

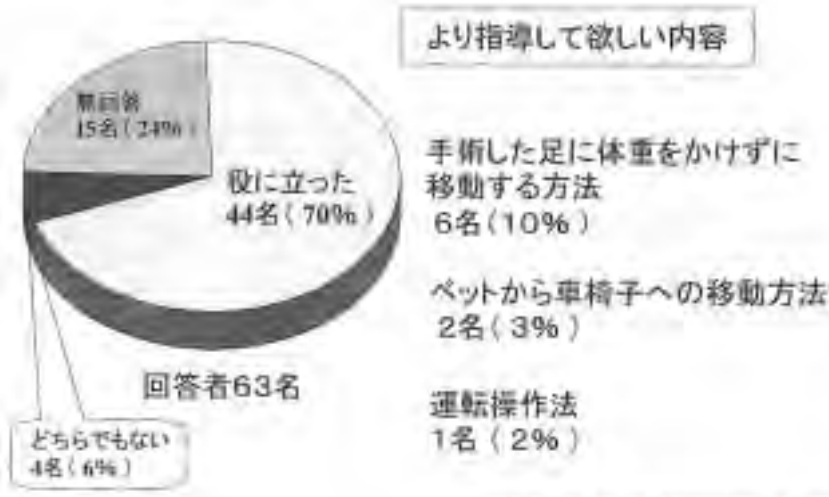
今後もこのようなアンケート調査を重ね、退院後の皆様のお声をお聞きしたいと思います。

これから手術を受けようとする方にとっても道標となる事と思います。

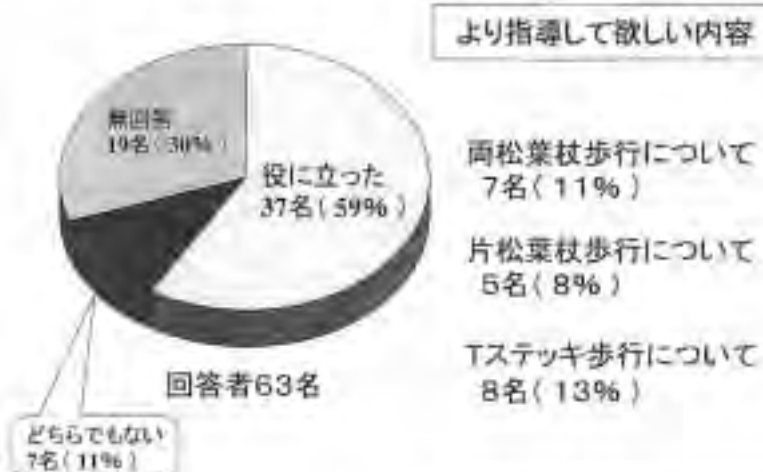
整形外科病棟で人工股関節全置換術を受ける患者さんの術後入院期間は、従来に比べ2～3週間と短縮されてきています。このような状況下、患者さんが不安なく、退院できるかどうかについて意識調査を行い、リハビリに対する満足度を把握し、今後の看護に生かすためアンケート調査を行いましたのでご紹介致します。

整形外科病棟 看護婦一同

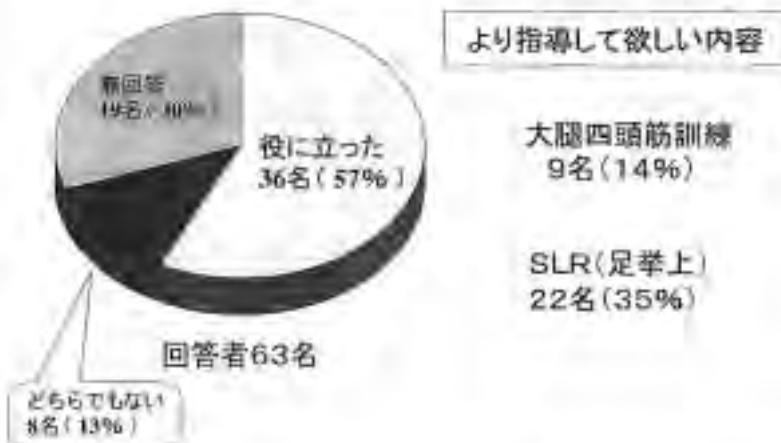
術前訓練(車椅子移動について)



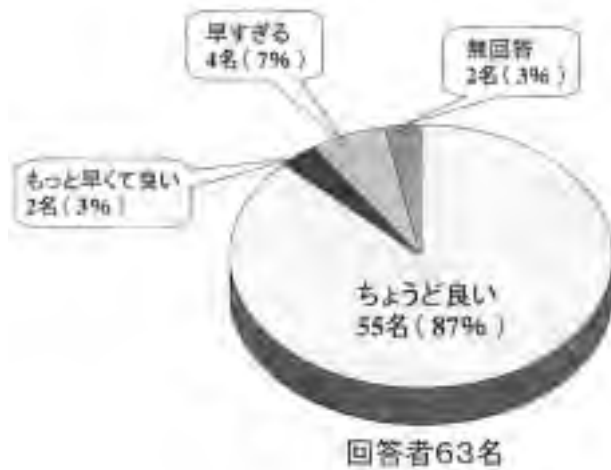
術前訓練(松葉杖歩行について)



術前訓練(筋力増強訓練について)



歩行訓練の時期について

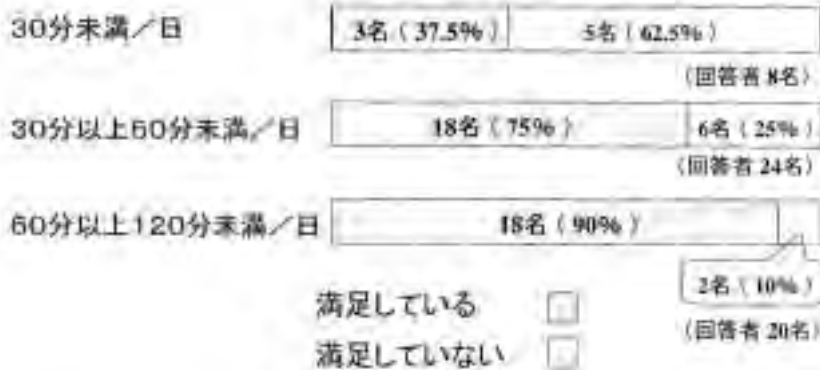


入院中により指導して欲しかった項目

入浴方法	15名
正座	13名
靴下・ズボンの着脱	13名
階段昇降	9名

63名の人が複数回答

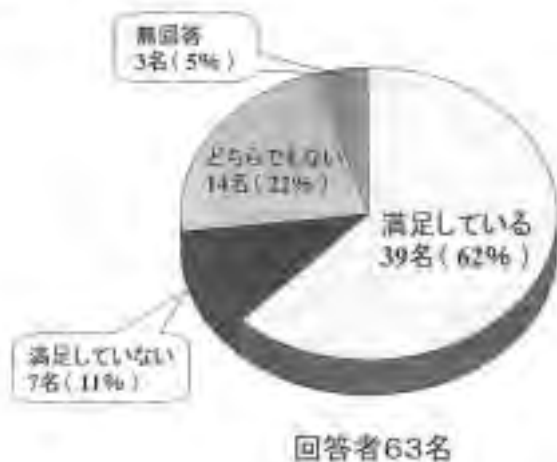
リハビリテーションに費やした時間および満足度



リハビリテーションは主に誰に関わってもらいましたか



入院中のリハビリテーションについての満足度



人工股関節置換術のリハビリテーション計画

1日目	60～90度起座可 下肢挙上訓練開始 腰痛時、外転枕にて側臥位可
4日目	端座位、車椅子、トイレ
7日目	歩行訓練(平行棒、歩行器、松葉杖) (1/3 荷重)
14日目	片松葉杖歩行、シャワー (1/2 荷重) 側臥位可、1本杖歩行 階段昇降、正座訓練
21日目	退院

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

この度『股関節だより』の編集を担当させていただくことになりました整形外科医局の倉崎優子と申します。

お忙しい先生方や病棟の看護婦さん方に、「早く『股関節だより』の原稿を出してください、出してください」と、再三催促して、やっと2000年に間に合い第1号を創刊することができました。

今回はスタッフの紹介等を掲載していますが、次回からは皆様方からのご意見等も取り入れ、スタッフ・患者さん全員でつくる『股関節だより』にしていきたいと考えております。

ご意見、ご質問、近況報告、何でもかまいませんので、編集局のほうまでお寄せください。お待ちしております。

また、外来受診の予約・変更等も私のほうで受け付けておりますのでご遠慮なく下記までご連絡ください。

寒い日が続きます。どうぞ御自愛ください。

お便り宛先

〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1番1号

佐賀医科大学整形外科内

股関節だより編集局 倉崎 まで

TEL: 0952-34-2343

FAX: 0952-34-2059